

## 公開講座（人権講座）

# すべての子どもの未来のために ～子どもの貧困問題と支援～

近年、マスコミ等で子どもの貧困について話題となり、ようやく国、県、特に富士見市では担当センターを設置し支援、対応に取り組んできています。

市内に多くのコミュニティー、子ども食堂が開設されています。

一般に子どもの貧困に気付かない市民も多く、この問題を考えるために海外、国内の先進的事例を紹介していただきながら今後どう考えたらよいか学ぶための機会としました。

日時 2020年12月21日（土）10時～12時

会場 鶴瀬西交流センター 多目的ホール

講師 末富 芳教授 日本大学文理学部

先ず先生からの自己紹介で、文科省大臣発言「身の丈問題」でNOの声を上げ不当さを明確にした研究者のひとりであること。

それ以前、2014年より文科省の推薦で内閣府 子どもの貧困対策に関する有識者会議の構成員を現在まで継続。2017年より文科省 高校生等への就労支援に関する協力者会議委員。

講演内容の冒頭に日本のDV被害によりシェルターで安らぐ母子の写真を示し、母子世帯の50%が貧困ラインであえぐ象徴的な状況を説明。

1. 海外、特にイギリスのMilton Keynes市を紹介、貧困層ターゲット予算の継続で2018年のPISA統計で学力は日本を追い抜く。

日本はイギリスに学ぶ必要があるのでは。日本では平面的平等主義の呪縛があり、どの子にも平等といいながら手を差し伸べる必要のある子を見捨てている。



講師 末富 芳氏

ただ埼玉県は例外でしっかりと取り組んでおり、市町村間の格差が広がる。

虫歯検診で格差の是正に取り組む田川市、足立区の紹介。

H12年から内閣府の調査はあるが、関心が薄いからと否定的な面からの指摘より人の役に立ちたいと回答する子どもの肯定的な側面に注目したい。

2. 子どもの貧困の定義で相対的な貧困に着目されるが絶対的な貧困は現在もなくなっていない。さらに、はく奪、物質的不利、社会的排除を重視。

各項についてパーセント、図表説明から具体的に示され、大きな問題は「情報ギャップ」である。知らされていれば家庭、子どもにとって手助けになったのに、逃してしまいがちが現状である。

3. 日本の貧困対策法のこれまで、今回改定のポイントについて、プリント資料に掲載のアプリから参照のこと。

4. どうすればいいのか？

基本発想1

すべての子ども・若者のための貧困対策

貧（低所得）を縦軸に困（子ども・若者が直面しうるリスク）を横軸で示す。

5. どうすればいいのか？

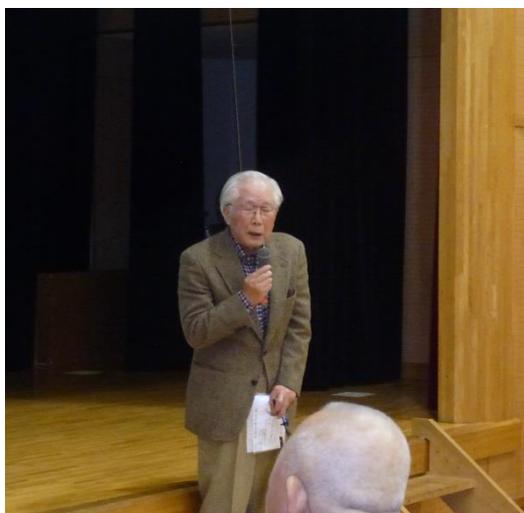
基本発想2 子どもの貧困対策のゴールを明確に意識する。これが大事。

ゴールを明確に意識した実践に取り組む＝学校のプラットフォーム化・チーム学校 子どもや当事者の声を大切にされた子どもの貧困対策が育ちつつある。

参考 大阪府・神奈川県の居場所カフェ、石井正宏さんのfacebookより資料が有り。

最後に、埼玉県の子どもたちは幸せですか？という先生の問いかけに、常に大人たちは反芻しなければと思いました。

講演後、3人の方から学習支援、居場所づくりについて質問があり、関心の高さを知ることができました。



主催者挨拶 瀬戸理事長



来賓 山口教育長

